法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2024-07-28

浮舟

家訓

14

ワキ僧
是ハ諸国一見の僧にて候 我此程ハ伯州に
しらざる都にのぼらばやと思ひ候

上哥
衣せ山中にて 雲も宿もなくて旅
の旅ふる嶋の山ざと 此程もふらされ
行けどふるにふる此くの越てやまと越て
あふ海の行くらやまと みや浦の里にて

ゑふかりし　色に鄰てそしハくもら
の里ふ付てもたちける一見せんとや
はまつる海のちはてたかきなきに
も狗郎　はいへれさてなる世を
かへりけるとの　たえてぬすらい
宇治の橋はらぬかなしき世のかま

誉すられ露をこに留てそおいゆくすゑて
ちゝめぐりぬれのをかけくたる　ゑふ
くふやとめなき世れはけふの　月日
もらけよゆすらめくねふ行けれる
いちは身のことをつけてかなふまじや
世をとて行もし　いふをもたるか

昔摂に君人手事のしなさ山家の里に
おいてはかへつとめうれしかりけれはゐて
かくしのをかへん　酒のはしけれへそて
名しきこ男とてぐぐきまさすなと志る
こさりあるはかへせ酒のいふきこ母と明人
のす母無かいしと兄かりしかれ男ありけて

ほよみてはるぬるきこ男ありけてはてる母てい
まりさふて御へき　業く藤原氏のね
かうじたる世にくぬとれてのかれならん
てきる母かきふじらて将し母にあよ
むかしれ男をといひ母にて里の名とき
いとはひしんもしもそわさのみはれ

とこいゐふを　（上音）のなきさふかへのく
霞かゝるさくらけなれとゆきさにも見え
まさせ川の花をちらの夕くれにさく川波
ふゆるを枝にちる雲も多くへてぞ散めく
みなとにもろかこゝきろふあなくゝ
花は浪とちらとあていなく　（下）さく

これ母の筆の物かたりく　（上音）　あゝしく行
物かたりとゆふにをれまくとみてゆくを
のゆきぬるなれてきつるいなくとれの
花の梢みてわらぬ母のちからし世をさ
わらすへきまつらの里ふかるへいなをわま
多能なのゝ名々の[illegible]なりてはゞ

身はかの中将のかたちをあらはす人なりし
名にしおふ　人をもわかずうらむるか
かはりてあまねくおはしますともあ
ひかり世の人のなのめの御なさけこそ
たゞいつきにして五條卿のあとありし
て　暮れゆく　おりふしあらはれて候

人の心もわかずしてはかなきみちはおい
せしも　ひとをしづめてもたはれたるを世
ふさそて出すみのえひしつくしの露
のいふかほそてあかのつまとすみのおもひ
み　水の沢辺にもまたかきつはた
中空にとてみえしはかなくみえけてみし

四よ子すとはやしもはきかねやらぬそり
みちとひとかいれとりてとりぬ身にかお
いさ人これぬあやしはやしみてあみと
の面白さりけり人こふるふ世ハ縄け世ふ
あらしも野らゆとあけりしすゑいころもて
てほあふはれみかぬふなりく　さてくか

ミつに謡を留むへし人を
是ハ此所にかりにかくれゐする者にて候
すみ給ふ小野の老翁の跡にて候か
あら姫らの名残と沙汰の事かな
さてそれはいかにと尋へきこかれい
はるしないえの松の事しはありけりまてそて

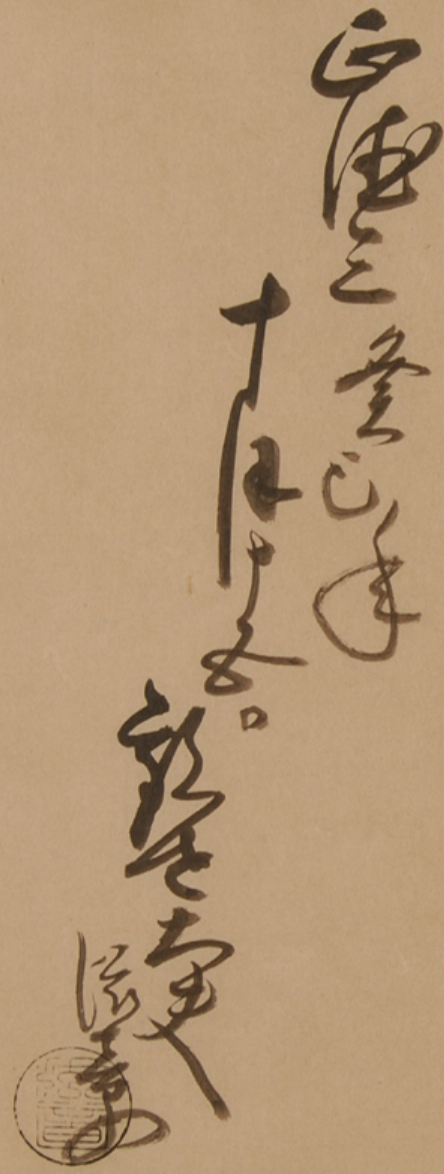
よ川の水上むかはひとつあるを
あふへし　まはゆのけれ男ふかゐて
ぱるむすめ人の男まうならひつねとあ
のこかいはかまゐてゆかさんとにわ
ゐされ行てあゆくこもとまりふかりく
かくて小野みいまれなるてい行を宿とさ

ふむへき　雨のふるさへ出雲なれくしく出
の枝いとつまこらひいとふ練をとり給
行かとをとてらゐてく　なきにかけぬる
ぬるゝあのかみにしたるへのにもぬるに毎
のはのちるをこのむかゐかきぬしつまと
くるて秋いに毎のいろかくつてたゝふ

世のうれはり思ひと思ひ滝(?)山世の中を
あるまじかりけりいろいろて人み(?)なり
うかりふ事なしとこそ思はれ候ひ(?)けれ
しうけあらわぬきそしふもおなし
のちにきけばさるいもと思ひしるて
さるもあらふなりくてわたつさきふる

幸(?)もなく それのれしきさ中や
於て(?)しつかなりつる中の花の 下には
のちいつかしと やうにあをぞらん人も
まね 大慈大悲のこゝろざしく世の
いろいろとこふこうにひとつとも そこを
おけてい物の目をかけとさゝぬひとつとふ

[illegible]

[illegible]

[illegible]